

発光分光分析装置 朝霞工場にも導入

三芳合金工業

銅合金の鍛造品や押
出品などを製造する三
芳合金工業(本社・埼
玉県三芳町、社長・萩
野源次郎氏)は202
5年度上期中をめぐ

に、細物の棒・管など
を製造する朝霞工場
でも新たに導入す
る。

(埼玉県新座市)でも
発光分光分析装置を導
入する。銅合金の溶湯
分析に用いるもの。導
入により品質のさらな
る安定化やリサイクル
材の配合増などにつな
げる。投資金額は約2
千万円となっている。

発光分光分析装置は
光を照射し分光した光
から組成を定量的に解
析する装置。溶解炉で
原料を溶かし鑄型に流
し込む直前の、銅合金
の組成分析に使用す
る。すでに埼玉三芳
町の本社工場には配備
されているが、朝霞工

場でも新たに導入す
る。これまで朝霞工場
は蛍光エックス線検分
析装置で計測できない
元素については、経験
や勘などをもとに成分
合わせを行ってきた。
発光分光分析装置の導
入に伴い、より厳密な
合金成分管理ができる
元素の幅が広がる。
またリサイクル材の
使用拡大により製品の
低炭素化など環境への
貢献にもつながるとい
う。工場建屋の外に検
査室を設けて、既存設
備とともに発光分光分
析装置を収納する予定
となっている。